

13
2209
99

繪本豊臣勲功記四編三之卷

目録

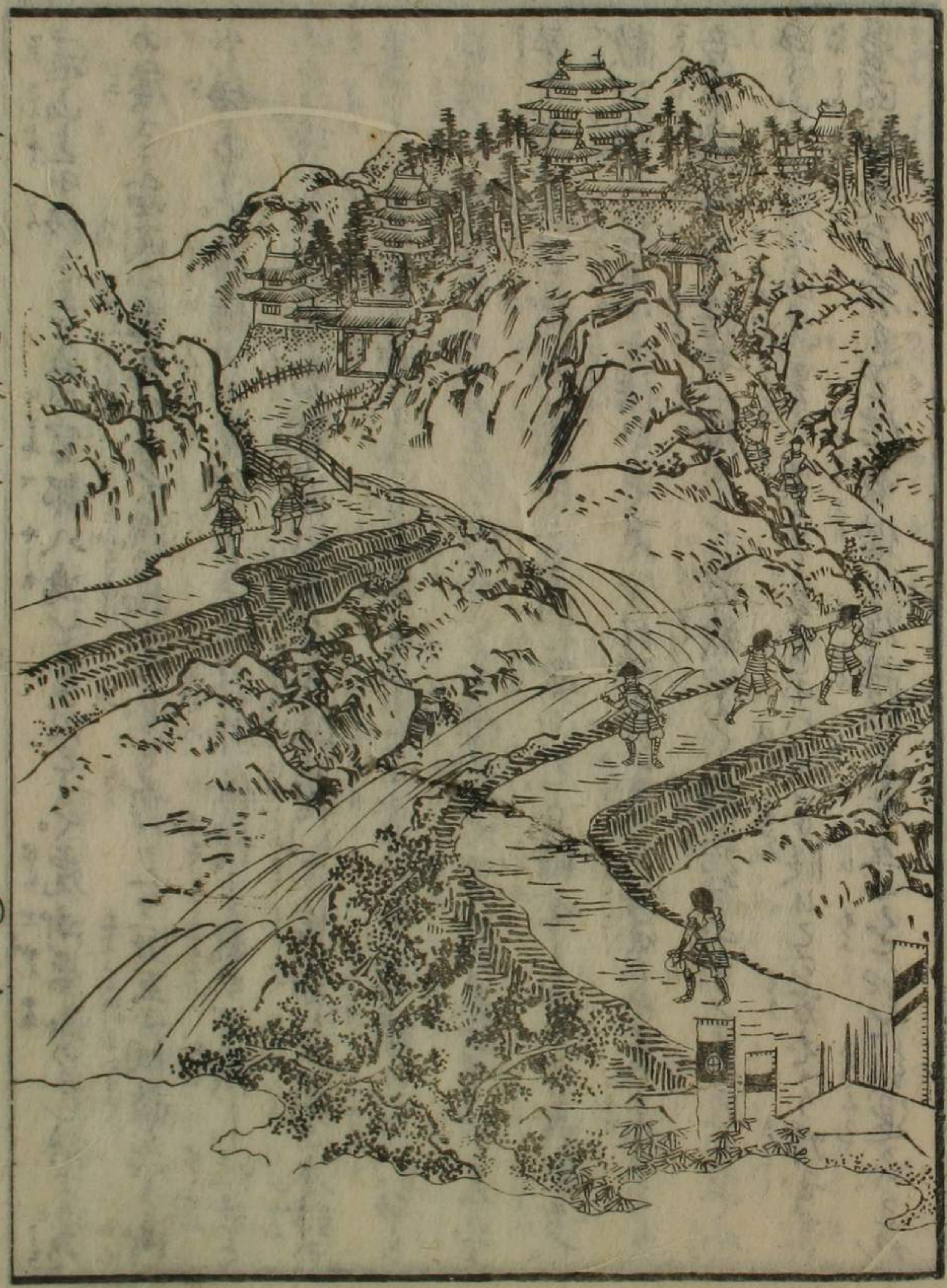
山崎長門守謀成信長降軍

属義景退去

秀吉救黒部大拉津井堀

属公旁外慮

目録



虎御前山の
城成て小谷の
城を沈視す



上村赤村討意を奉受し。暗夜小幡をて虎前山の林麓の陣小幡
 小幡の若もさく潜ひ扱四五箇所小火を薙り小幡中、勢風流のそとく
 ちびり、燐々爆々と爛敷をこき小幡に織田家の門を前發動々
 ちを木下指揮して諸陣を鎮め必定敵の要害ならん、敵段こそ氣絶
 ち、然れども當ころこといあるまじ要情少くなく、つとて、隊伍固らま
 と敵重小幡を相待りまじ、敵一人も出ず、左右をらち火のそも
 漢り、夜ハ朗々と咽く、信長諸士を唱集め、いさま下と評定あり、藤
 吉舟進んで云、城速脱小成、然れども、六對陣も、さく、益あり、所詮この
 ちびり敵と亡と、陣も、つと、れが再び衆を、敵を、つと、小及、た、し、す、つ、核
 山を、河邊を、あり、て、ま、つ、推察、小義、も、歸、出、の、不、存、十、分、あり、
 備戦、いん、と思、ふ、ま、つ、敵、前、の、如、火、災、の、強、さ、い、こ、よ、り、死、時、并、ん、ぬ、ま、い、

是能一戦を初む、小夜段、然れども、せざる、事、能、々、軍、を、好、ま、ぬ、り、終、つ、
 あり、ま、つ、事、ゆ、え、と、驚、ろ、小、信、長、遠、義、小、同、く、玉、ひ、小、屋、の、焼、中、と、わ、柵、鹿、角
 亦と、結構、ひ、さ、を、虎、前、山、の、城、中、外、小、守、護、將、士、も、さ、い、と、則、秀、吉
 小、介、せ、ら、ま、宮、部、八、海、後、援、を、領、猶、又、磯、野、丹、波、也、を、海、郡、
 唱、振、り、海、も、共、小、遠、地、小、止、り、木、下、小、力、を、勸、せ、し、最、終、小、介、採、れ、雲、雀、山、の
 城、を、せ、ら、し、せ、六、日、の、白、昼、小、虎、前、山、を、衝、立、あり、て、横、山、の、城、へ、衝、入、る、
 義、累、始、終、を、所、より、も、山、崎、が、計、ら、ひ、せ、感、賞、せ、ら、れ、終、も、思、ひ、の、つ、が、を、遠、じ、
 然、が、保、陣、の、準、備、せ、せ、ん、と、甲、乙、と、な、く、強、さ、合、り、信、長、の、敵、の、害、さ、を、い、
 ん、と、一、兩、日、逗留、せ、し、ら、ど、く、向、か、さ、ぬ、も、見、へ、ざ、り、六、遠、う、の、別、事、あり、ま、い、
 と、漸、父、子、も、小、横、山、を、衝、立、あり、て、遂、小、波、卓、城、へ、衝、陣、あり、これ
 小、より、て、義、累、も、心、を、穿、ん、下、諸、軍、を、ま、ご、め、十、月、二、日、辻、早、又、小、大、嶽、

の陣と退きしに越前當とて帰馬せらるる且湯井への助力とてハ竹倉
系鏡小五子を副らむ。あまを江別小を止らる

秀吉救宮部大拉津井勢属公方外慮

一身都に騰りりとも秀吉が如く所為なりとて今虎洲前山の構ハ
東西南小倉敵小とて是を助後援の公士も昨夕織田家小降り
者小て心全く信ありとて并せ恐臆の色を以て恭々然と軍城の鬼神
天物の歌集とも猶兇戯とも思はせらるめ初る堅牢の城とて長政
一隊の軍勢とも千五百化して攻まはると辛くもと落さる理ありん時
小十一月十六日長政より千余騎小竹倉の加勢景鏡が五千とて
て虎洲前山へ二を二小攻蒐きとも忽地惣軍敗走して遠く小谷へ
退投り長政亦評定形一遠遭ハ虎洲前山の後援する宮部八

島を攻落さんと清井の倉社惣軍勢二万余騎小て推進する宮部
の城より石居致洞自燃五百とて小織田家の加勢三百余騎合
せく八百餘騎立とのとも追々之の勢小はる時ハ軍の角りて大牛の角
争ひあを小もあまら然とも猛烈の善任房を士と励まし踏まざる由た
右より落城なりとて木下勢と所よりも助力をべしと準備しとて
若波九郎富田増井依諫めて謂や進まじ北の大軍あり小
軍せりて助力せんといふと氣願く存ざるあり第一合戦あり時ハ當
城とも危うくべし是非救さんとこの事あり遠傳吾依小命一玉ハ
粉骨碎身するらん誠とて練めたる小を秀吉所て感涙を一東織田
家の恩賞とも奉るる者若波若波異見未なり然ハあまも遠月
く小救つて盟約なき小居出軍せざるも本意なり若波若波志も亦

ぐんまもまづく小隊小任せりあて。箇指く小隊一玉(一)と計を謀合せ。
 手取山小止り。磯野丹波もも計畧を教へ合号を遠くを推進た
 まへと急ぎ指揮を傳へせり。木下隊のま中より八百余人の選ぎを
 送りし。一隊を推し出せば前波九郎多衛富田彌三郎中條又兵衛
 梶原勝多留七百餘騎少てた小隊伍増井を内毛吉猪之助流川彦
 右兵衛大橋七三郎七百餘騎少て右小隊伍虎御前山小隊伍中
 村源助も山藤井を止めを惣勢二千二百餘騎烈風の像く殺せり
 て淺井新倉が二萬餘騎の後れ方より合勢もさく。飯盛小隊もこ
 突を襲ふ。魁のりも勢りぬ加藤孫虎之助流正井と木村を助て
 四角八面小奮突し。れが續ひて福將所相尾常氣はの若武者
 軍北面額足の嫌ひさく。左右小難仕次倒し。前後小隊ちりり

惣軍の群衆を絶が如く。二万余人のま中をわづらう像く。敵勢は淺井が
 後陣特地崩れを右横左横小奮起。長政列りく。小隊をこの
 難く一個所をこそ。終をこして隊伍締らむ。遠响秀吉配推提左右
 招け。忽然と左の方より前波富田梶原中条の七百餘人横突あり
 て淺井勢を壓せん。突を襲ふ。右の方より増井。毛谷。流川。大橋。七
 百餘騎。喊を合せて横突を。之方より列りく。突起する小ぞいと。崩れ。淺井
 の後陣。左右の横突。小崩起らむ。口度。路。小ありて。先陣へ。む。さ。う。を。長政
 系。統。を。妻。時。城。責。せ。り。ち。奔。り。木。下。勢。と。戦。え。ん。と。先。陣。後。陣。を。將。せん。と。意
 ども。大。勢。の。亂。れ。事。由。自。己。が。誤。り。小。妨。ら。む。隊。伍。を。惣。を。事。あ。く。ま。を。城。中
 志。を。身。下。り。も。木。下。が。後。援。の。勢。小。替。力。を。合。せ。よ。と。若。兵。房。自。勢。五。百。人
 小。て。殿。へ。發。奔。起。り。淺。井。勢。を。如。箭。若。烟。と。掃。り。り。遠。响。朝。倉。式。部。也。



豊臣秀吉の陣



秀吉
微力の
勢を以て
浅井朝倉の
大軍を
破る
宮部を
救ふ

豊臣秀吉の陣

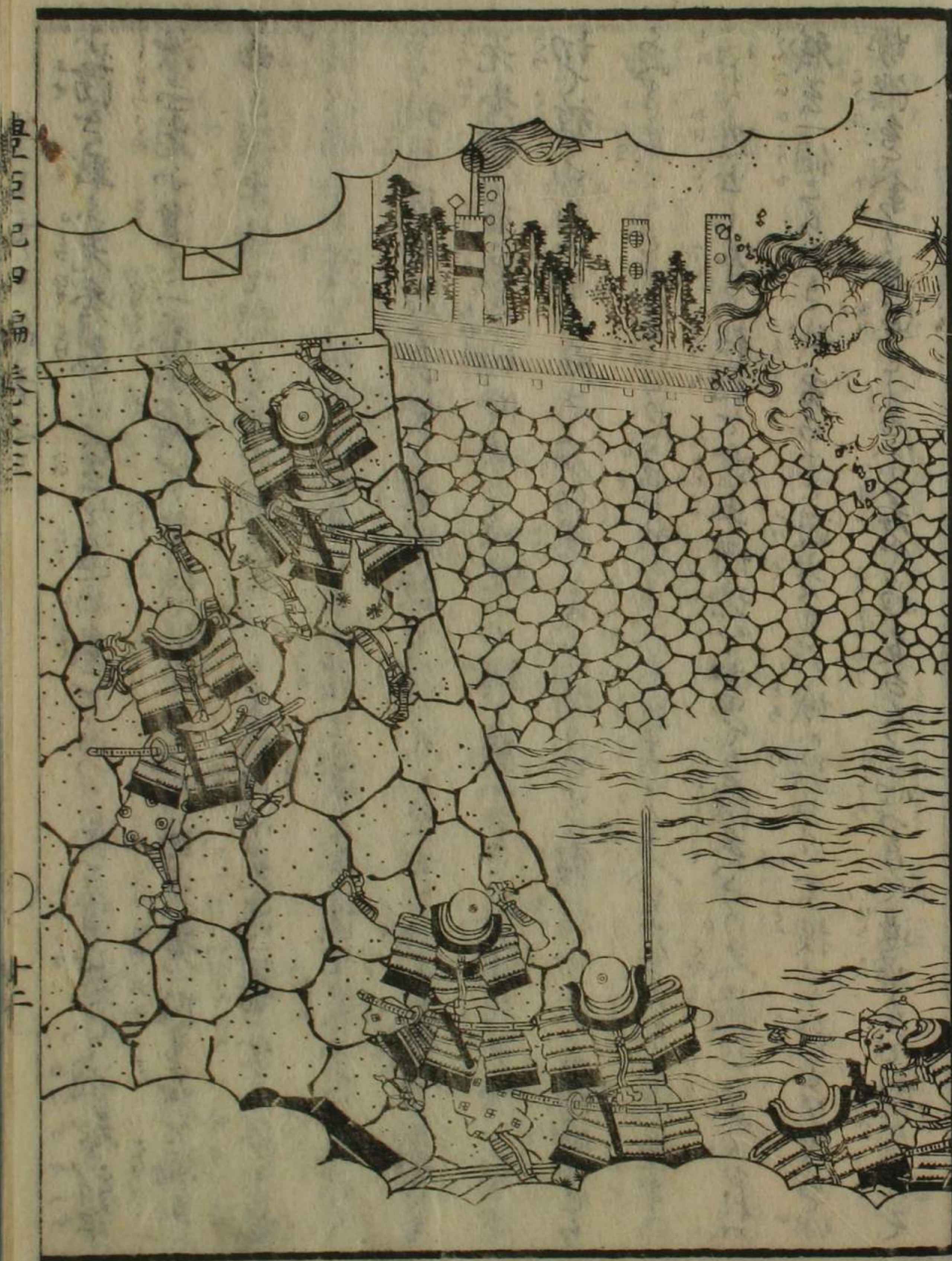
六

一ツの計謀を案し出。官部勢は戦ひ口を浅井長政小まを置東の方純
 括て遠慮小城を攻取んと自勢小下群と進む所を東北流布本志南との山際
 より磯野丹波も員正三百余騎小て強来る。新倉焼のうしろより鉄炮も起
 探り小小勢をこも新隊の磯野名小負勇將ありは是は自方正野小
 と進め瞬もせを強通を果流が隊の二子余強裏崩と散乱を遠
 圖を援を流將と蹄勢尖く強破り浅井が隊伍は横さぬ小爆火
 の如く駈て暮る木下ゆく力を得て四方一夜小激叫々。火水小ま
 と攻着るまは二系と所へ大軍もを敵を小力あるま。浅井新倉
 の軍もこも惣崩まとりなる小大將長政系流矢火小をまこも
 方術も思ひながら敵敵と小谷の方へ馳まると木下磯野官部のを
 士一隊小ありて追敵を。敵と敵軍を救を限務無揚てま小まりの

城(遠陣)に敵提一賊もを波卓(晴)軍に次第と音信しつるまは
 信長大不感悦せらるまは又の褒賞せらるまは。新波高田の軍の候も秀
 吉が智仁小降伏し真小忠信を烈まはるる。遠遣官部の後援と朝
 むらるる。勝利を得人事の着小も思えらるる。玉陣のそれも異見をせし
 遠侍軍小増之感至し。いつるまは敵に大軍を引まを易く破前とま
 易と現切らるる。小や最も士勇種小かえととりま。二系は敵兵一
 もまはるる。見苦し追敗北せしこと敵の弱しとの亦もあはし。強ぶ
 不思議の所奉止とと訊ね小秀吉竟爾と笑ひ宣ふ如く。昔の如
 勇を兼らるる大將のまは。隊のまは。弱あらま。然る亦まも備前
 先自らの取軍小憤怒満拍あつるま。へ。備前種をのま。こ。て。慮り更
 小。又系流が加勢を。小。引。又。戦。ま。と。今。日。官。部。を。攻。る。小。二

万の大軍と一隊とあり。憤怒の餘り小宮部の城を一時小攻落し。當
株の後援を断んとせしめり。尙思慮を廻らし戦ふるも二方の言を
小宮部一隊の宮部の城を責一隊の當城の雁とあり一隊の遊軍に
て心中に隊備し軍威壯ん小宮部とせしめ義子及たてしこと長政憤
怒の勇小宮部。思慮を返り。後進む小宮部も是も是を頼ること
あつた其圖を計りて攻落とも六羽の統く敗走せり。然もその
圖小宮部のその念名の身命を擲奮激突戦し至ふ多(と)と功を獲
りて謙退しなま六羽人々皆感佩なり。忠義小宮部を傾けり。諸長政
も大軍のまこと儀に小宮部を攻落すとと欲えされい。圖を
なせとも詮為り。狗と扱くと止りたる。京邊も遠般小宮部。一七人
國と士氣を補ひ再攻義京諸とも小出馬さんと帳を言。餘を

の勇士中鴻惣た。城の志助並小泉寺の衆徒西林房備を丁
野山小残し置其身の越前へ帰國はしり。是も小宮部も再び戦を
好まされは虎洲前山よりも毀て出でゆらと合て目と送りぬ。それ欄
遠小宮部も希有なる大氣生来せり。京都將軍義昭公い。あは優羽の
さらし小宮部死くも河野心と思し。立信長退治の御書せり。甲別の
武田近別の後井越前朝倉越後の上杉謙信の毛利遠征は
諸侯せり。小宮部も武田信玄の智勇兼備の大將あり。後井
朝倉と謀り合せ信長を殺しと遠列せり。出馬しこれと。後井
支へらま上洛せり。ことあつた。元龜四年とあり。後井も小宮部信長の
孫吉部が教わより。村井民部。河田不之助を使者とて。河野直正より
と。いとも更小宮部得心はま。石山樂田へ城を築き。諸將を生張り



堅田の城を陥



明智光秀水路堅田の城を陥

明智光秀水路堅田の城を陥

小防が戦ふ先秀烈しく之を進め息をもつせし責起りて明智が平
 次正先小進を一番小塚と宗越城中小逃り逃先秀程も声二初まし
 むき彌平次と段を斬つてけくと叫ぶ。次小光忠二番宗と名を掛
 橋は像く小塚と越り。城をこき小膽を棄てて途を失うてを強く
 雷我を庫助烈火の如く。乗投款と防ぐんと公士を勵まし狂勝を奪くも
 光秀慄小取宗至妙修練の没焼れて撰と段小あを流丸され公庫を破りて
 切て放く。あまもこして右は篠箒血相りて段被りいをす時もこら
 らへき馬よりごうと落りてうが我の老黨純まて主人と肩小引く。退平の
 門より逃出。幸く殺地と道出何地と當りうは失う。大將の如くされ
 残る一個こらあき。我方らどと逃出まて城に籠りて宗投り。初と公を伊
 勢渡を余り長退せし由。小若や過直さんと心づきて退席を。時公は徳を

と丹羽蜂屋六千余騎が一時小守退し。単騎急小攻るも初小も似て
 城をこき織田の糧を小擧げらる。天竺地首と崩れまて女まてとと
 些も撓まて城門際まで退過る。時小退隊の城門を網と推開き大
 勢一時小突寄せし。伊勢渡を自軍あらんと安途とる際もあまの
 こを盾と論せし吹起突を。辻風の像く擧げらる。小守久勢怖るも
 ろんは愛うと思ふ計を。逃る途方も難む。右小まて湖小満。た小走
 る樹石小赤。遠々京都の路を覓く。伊勢渡を流流公軍逃延る
 こを果敢まて。遠响明智丹羽蜂屋の隊。段捕首員三百余級。二
 將望田法城小入。雲時休まらる。石山望田法城せし外小敵
 公一騎もなく。江別平均る中より直々京都へ進上る。小も私の料理小
 せし。公も明智を坂小留め。並紫田丹羽蜂屋の三將。二月二日。改阜

小隊を軍の始末を具小新へ奪く褒賞を蒙りし

信長も亦威義昭公を和波属之洲強練

大樹は榮枯原より教ありを榮るるの時至るに芥子と是小用いされ

ども漸く花葉をまが如し。方儀是利の榮花も茲小断せんとき時

う形淡回や義昭公いづら減之と好ませ玉ふい實小鵝牛が角小

て織毛の牛小款をさか如。遠小織田弾正忠信長へ直小新出馬中

該もども甲別は太守武田信玄。貞濃へ執入の法法は小上上洛は義と

延引させし果して三月十五日。四百余人の勢をりて東兵濃岩村小

信長も亦信玄と好まを法んや信せし。吾願國へ全しは料理あり信玄

もつら親和を破て殺入への事り是小群易ととき。一戦小織田の武勇と

著威ししと陣あり。徳と武田の事とりて二百余人。武田は

み岩村城(叢向あり)是信玄と信長と親之の對陣あり。亦も遠岩村

城の信長の姉は。遠山修理亮頼系居城し。是も亦武勇の功居

る。秋山信春も晴近信玄の内意を奉て遠岩村へ執入し。防

戦のら小隊を頼系。痛死し。是も亦信長と親之の對陣あり。亦も遠岩村

をて城を受取頼系の室と自巳が事とす。亦房九。信長中八。春

とて陣あり。押領し。是も亦信長と親之の對陣あり。亦も遠岩村

く兵置たり。然も小遠道織田武田陣と對し。際もあらを東之河小

事出あり。岩村小徴。是も亦信長と親之の對陣あり。亦も遠岩村

系都を思ふ。是も亦信長と親之の對陣あり。亦も遠岩村

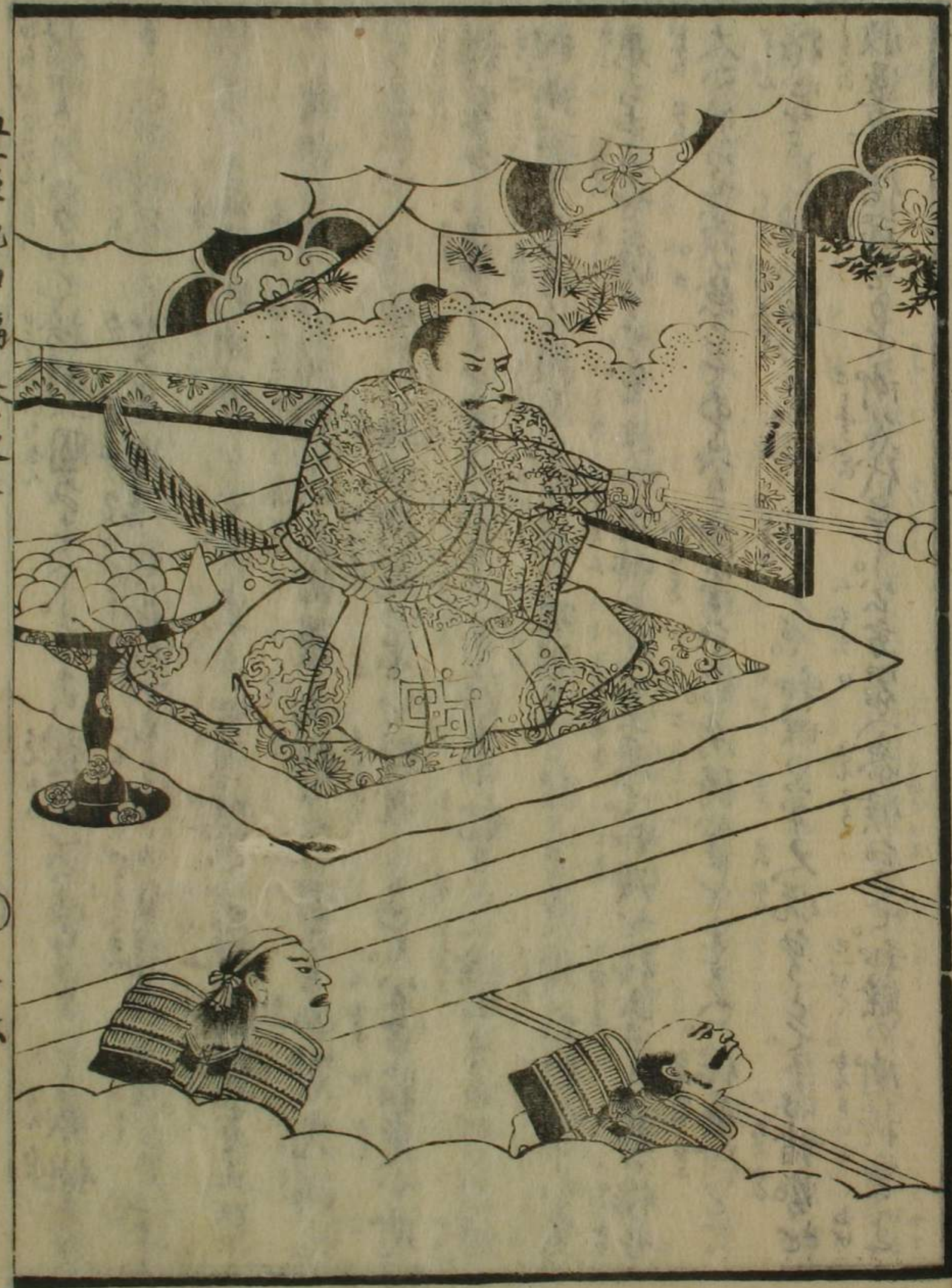
あとの準備速あり。然も亦公房家。石山堅田落城せし。是も亦

も亦信長と親之の對陣あり。亦も遠岩村

と嘆き頻る小練に奉きども一向是を用ひらるるを孫孝熟く思ふ
 とも小令小も信長上洛せば公方家亦負至ること境ふりける如し
 信長強氣壯大將の公方の御身まを危し。志うぞ信長の將佐と
 あり。志して公方の御命を救ひ奉らんと覚悟なり。信長上洛せらるる小
 佐之間小属を降参せし旨東へ入らる。備中松原の城を荒木
 信濃守村重長岡と同意小し。信濃小属を降参し別く願ふ願死
 中への松原十二郡を小属小切とせ玉をば身命を棄て得むればと言ひ
 小信長も大徳の御望との思ひから。動もせよ松原小切の余計
 降参して稔あらざる國ある由荒木が願ひ小任まぐ。とて遠義有免あ
 らせらる。斯く諸士條降参し奉らる上洛して諸人の困窮辛苦を救ふ
 とて同之月廿五日。京都を當て奉向あ。廿七日小逢坂小着せらる

岡谷部大浦荒木信濃を是を河津ひ小矢とを信長中つ孫孝也
 河津とく公方家河野心の家と向玉ふ小孫孝言の詞のち小公方
 家とらひ矢とせし。信長を心中と察し。夫時篤實の君子ありとて
 稱賞ひし玉ひ宣ふや。藤孝心安らる。悪くハ計らひまおらせし。河
 津とく。信長に思ひんち力推投る。走流と拔傍ある。公方の饒路を
 公方刀は先小貫。荒木が同さ。突出。いさや村重が密意を
 會せし。宣ひ。公方令へ。新ハ産奥小も量の有と堂小汗極りて控
 り。村重堂も悲願せむ。と云へてをうくと。あま傍共れ。堂と突
 ひて。頂戴仕らんと大口喝と赤岡。刀の先ある。勝願を脱小。會
 せら。信長軍。拔牙を納め。實小。勇の英雄あり。大徳小。申す。

豊臣記四編卷之三



織田殿
逢坂の
御陣ふ於る
荒木村重が
大膽を
試む

豊臣記四編卷之三



十一

村重一人の力にて、折別一圓をたべ。とよも懇望をせしめらるまじ。と感佩し、
 申す事時久く有て、大將信長義弘のちかき子自賜り、折津守小任を
 らまじ。西將則清供へて、其日の東山智恩院小折津を移さる玉ひ
 ぐ。諸將の白川粟田は清水六波羅鳥羽より、野も山も充滿し
 たり。茲小信長も再び折津の事を料理し、公方家更小折
 評定あり。是より四月二日大軍洛中、小礼は二條通りの町家焼
 起。折津を平著く、殿圍り、昇時小攻破らんとする由、隣國將佐の大名も
 来らむ力を落させ、倉卒小恐怖の折心出来、和後を伝出さるれば、信長
 大小笑を玉ひ、然こそあるべき折事ならぬ。折得心ほまると、信長何ぞ
 懐心せし、使と、郭面を好く奉らんや。和後之事大悦ありとて、まづ諸將を
 收退せし、信廣より折津代と。公方家急候を、和後之折津、京上

信長同月七日とて、京都と還を、玉ひに、別守山小折著あり、又より、佐和山
 へ入らせ、多ひ丹羽長秀と折津あり、密小宣ひ、公方家遠般、其感小憐
 也。一及折和後有とて、も當座の難と避ん、為り、必當累て折謀及らん
 茲こそ、いぬの破もあつて、瀬田山田、矢橋、山田、小折津の準備と、
 渡船と、妨げ玉ふ、其時こそ、朝暮より、清水と、清へ入、清を、海、校
 と、い、と、大船、五艘、調へ、と、余、十、日、小、波、阜、城、馬、七、遠
 め、返、させ、玉ふ、甲、別、の、武、田、信、玄、備、國、中、へ、礼、入、と、る、小、中、と、遠、意、思、家、と
 目、(あり)が、既、小、甲、誓、信、玄、の、別、の、地、小、池、向、ひ、風、東、寺、本、倉、(流、軍、小、中、大、橋、と、
 樂、必、あり)色、小、出、張、と、急、小、病、氣、再、發、と、終、小、來、去、せ、ら、れ、
 たり、(是、遠、別、撥、羽、の、陣、中、あり)遠、病、根、ハ、苗、毒、の、波、沈、症、再、痛、せ、
 甲、府、小、陣、陣、せ、ら、れ、り、が、禰、々、秀、吉、閑、者、と、り、て、諸、國、へ、出、
 一、是、より、四、(遠、陣、

七早く開出。信長へ討と言伏せしむ。東方正軍。信長欲死。
 備まらば京都の將軍より一度信長と和後ならん。
 時義昭公日夜不足と怒らせ玉ひ信長辱練容事とことごとく心小
 諧を。我將軍に敵小をく。信長が小威を侵さ。さうらう政道なる
 事事あさる。と先祖の靈(面目)と。類う小憤怒を發し玉ひ。今を
 勿く忍びしに切。信長小一矢射り。戦死せん。お忍びし。思は。
 直に同来七月再び野野心と企する。然るも諸將を於都て織田の權威小
 恐怖。とさ。公方家と相佐まわら。人も。今追脱事。さうらう。
 た系も義継への別若にの城小返す。和田伊賀も惟政の招引。
 降。新若如離散。と。新所と守護を軍。彼是千騎小。
 斯くの當所。要害を。様の。

漸動。は。と。信病軍の初め。より。新準備あり。
 之。大和。中。と。新。より。義昭公の。新。出。後。を。流。と。練。田。
 君。示。圖。ら。る。も。類。思。人。新。所。守。護。を。軍。小。再。と。さ。上。つ。ま。る。當。
 月。信。長。と。新。和。睦。は。な。ら。ず。あ。ら。は。嫌。や。と。思。ふ。際。も。ろ。く。益。の。企。め。ら。せ。
 玉。ひ。誠。小。い。ら。る。新。心。を。也。猶。小。當。所。不。と。出。所。あり。様。の。場。入。新。を。は。
 勿。作。ら。る。事。小。惟。も。君。と。信。長。の。武。威。軍。様。獨。敗。の。理。と。考。ふ。に。
 一。海。の。水。を。り。て。種。火。小。灌。ぐ。が。如。く。あり。所。於。必。死。の。新。覺。然。る。を。い。は。す。
 當。所。一。敵。と。受。受。潔。く。合。戦。す。由。尋。常。小。新。自。害。あり。六。代。の。言。
 事。の。餘。光。も。汚。さ。を。手。を。新。名。も。清。く。聲。名。徹。く。地。政。を。さ。び。と。上。正。
 しく。仁。德。あり。下。章。一。丈。小。至。る。も。同。く。和。と。練。く。戦。ひ。不。意。の。救。
 ひ。も。あ。ら。ば。小。忍。も。多。く。得。ざる。君。是。す。の。新。行。状。内。政。事。を。私。と。

中へ外へ長居會此れ命と用ゆる族なり。然るに織田家と構へるもど
 其の間に公方家の不慮より生ずる事あり。君予りて自己と外に人々を
 めどとて重なりつゝ。君を心にしむをのほと信長より公方道もせよ。何
 こて公儀と信んぞ。元是君の知行跡正しらざる故ぞ。信長は
 狗中小侮し心あるとて自然に公儀の視ゆるあり。公方の信長の
 を會入心のありあり。君初より信長の恩と交を至る中事。山海よりも
 大ひあると譬を功小弱り。新を禮の布為ありとも。新儀忠より公方の勇猛
 不義の信長もせよ。忠義を竭さるるべき。若又君は新政事正しく
 仁慈を加へ至ふりのと信長猶も公道ありて天道いをも罪とあると
 至ふ事あり。信長が罪を犯さんなり。新を正し公方の公方部自終と
 辨證のらん其くの違ひの所企と止り至ひ雲時集が其儀のわとを察料

あらやかしは返りも當所を邊をまじく至らん事。公方家滅亡の基
 なるは。新無用あり。至るべし。と謂を正し理を竭し。憚らむなく奉諫しけ
 ばと誠小は利家の滅とを。時至るや。所記を遂小楨は善人新重を
 育し。清問よりし事あり。

守公方家を讀之淵澤丸馬堀川右功

月落烏啼霜天小滿。楓橋夜泊の景のそとを。獲小令將軍
 義昭公楨の鳴る落を至ひ公方新儀を以て至る理とて吟せし小勢
 擊らり。月落を君小は。烏啼は是連枝霜天小滿とゆふ霜
 る霜霜又や。織田の軍勢都小滿る。楓橋ありねと宇治橋の西南義
 向小も又心あり。然後話の搭き。公方家の再び新儀及より。様の
 至ふまよし。政事所へ。信長其をあると。同く五日は早に出し。

まづ佐和山小瀬あり。時小虎新若山の城を。本下孫吉市秀吉の持城の防
 禦を堅牢小瀬一行申守衛を守將とて。若士教多城一を。身信長の所
 供せんと。後信長百騎をうけて。佐和山に城を急築せし。信長小瀬に
 公方家の所成所の所料理のいふぞと。所尋ね重一奉。信長をいせ。関
 原。忠忠と考らふ。公方家と再興を。奉。義昭公を將軍小任。下
 安途のし。奉。是信長が。誠志小。大敵と。故。然。小我
 ぞりて。仇の如く。小思。再。新野心。あらせ。自業自得の。次。天下の
 小此君を。除。とせんと。欲。のぞ。憚。公方。の死。生。時。小
 隙。料理。一。宣。秀吉。是。集。若。も。通。遠。道。の。糧
 理の。悪。君の。大志の。成。不。成。若。人の。帰。と。呼。せ。と。一。大。事。の。坑
 小。賢。と。回。と。新。の。平。と。し。と。計。を。と。好。最

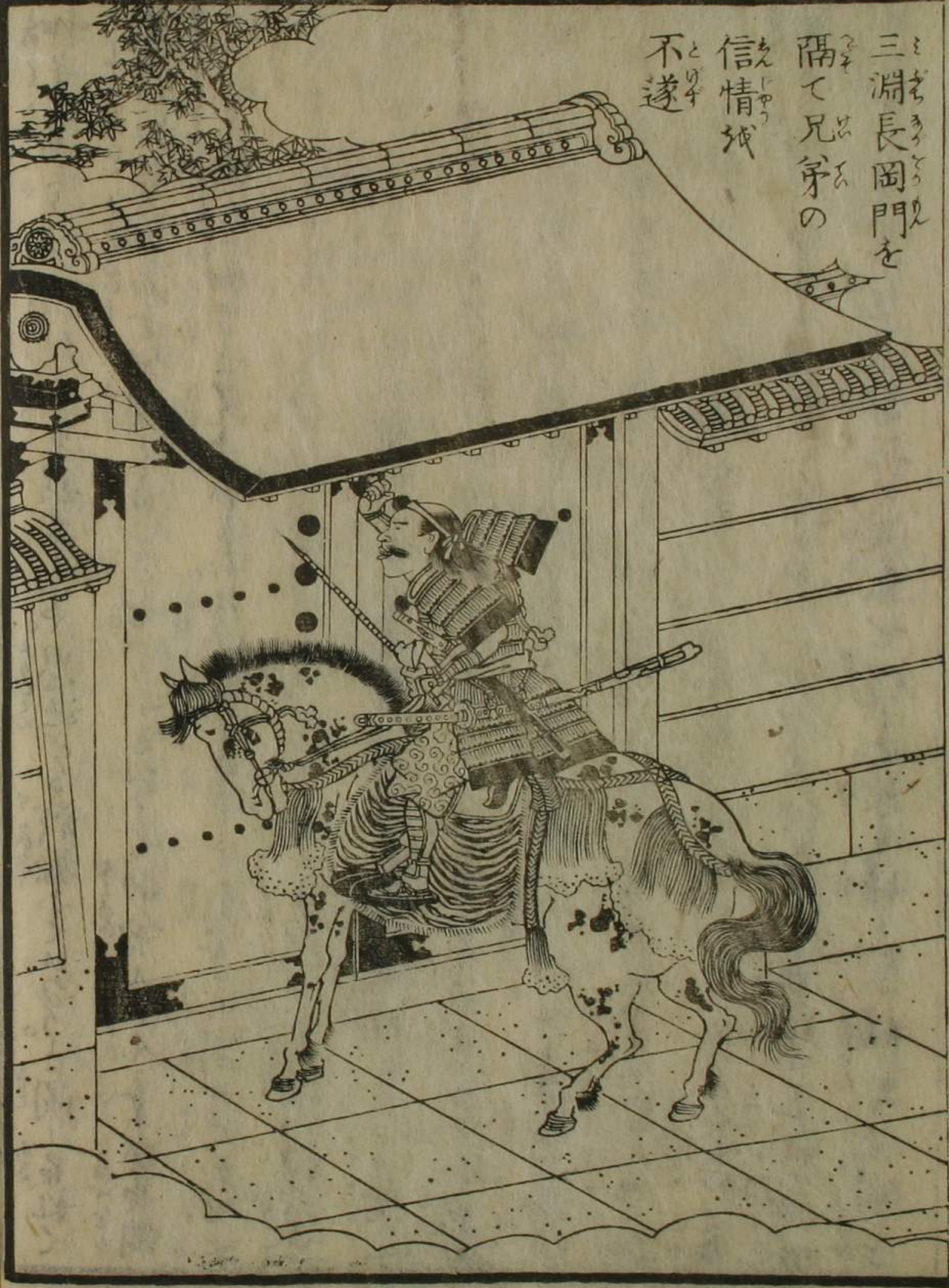
慶長と。と。可松院殿。十二代。光源院殿。十三代。兩將軍を。補佐。と。也。も。
 度々。致。と。遂。小。遠。路。の名。若。若。遠。事。の。心。得。は
 必要。と。若。切。と。呼。信。長。の。唯。う。び。至。一。言。の。詞。も。な。妻
 時。點。と。海。の。大。切。の。城。を。虎。新。若。山。小。残。と。宣。と。を
 孫。吉。市。彼。城。の。隨。各。防。禦。の。准。備。堅。固。小。の。當。て。過。失。あ。ら。と。最。由
 遠。道。の。所。上。洛。の。天。下。の。與。濟。を。定。め。若。新。大。事。の。時。小。得。は。非。小。供
 頼。と。と。信。長。を。評。信。と。多。以。翌。日。佐。和。山。を。と。奉。て。長。秀。小
 命。し。大。船。小。諸。將。と。若。若。坂。の。岸。推。涉。り。直。小。京都。突。振
 して。二。條。の。所。小。攻。進。と。若。若。之。瀬。又。若。若。藤。秀。公。方。家。より。所。留。守。の
 事。と。命。せ。られ。決。し。も。天。運。此。小。極。是。利。の。代。行。相。と。想。決。せ。一。傳。り。若。若
 雷。戰。死。と。覺。然。と。極。也。一。も。思。く。氣。色。々。日。野。大。納。言。懸。資。紳。若。野

宰相永相綱を以て外堂より入て堂上にて面倒ありて、
 其の死を皇後信五十余人、河原の大門とて、
 田嶋を以て相引ごとく、濠を以て河原を推進せしめ、
 乃る之を河原を以て、
 死せしむること、
 播磨の如く、
 幕地小並入千方面當りて、
 るが如く、
 小令之淵が戦死とせし、
 遠小津覺あり、
 馬を飛せし先隊、
 和守孫秀小の戦死と覺期せし、
 大将信長、
 公助大補、
 めをせよと命せし、
 這時、
 大津路死、
 所へ長岡藤孝、
 んが死を極め、
 門戸を嚴しく固め、
 重さん、
 の正申小、

和守孫秀小の戦死と覺期せし、
 大将信長、
 公助大補、
 めをせよと命せし、
 這時、
 大津路死、
 所へ長岡藤孝、
 んが死を極め、
 門戸を嚴しく固め、
 重さん、
 の正申小、



三淵長岡門を
隔て兄弟の
信情残
不遂

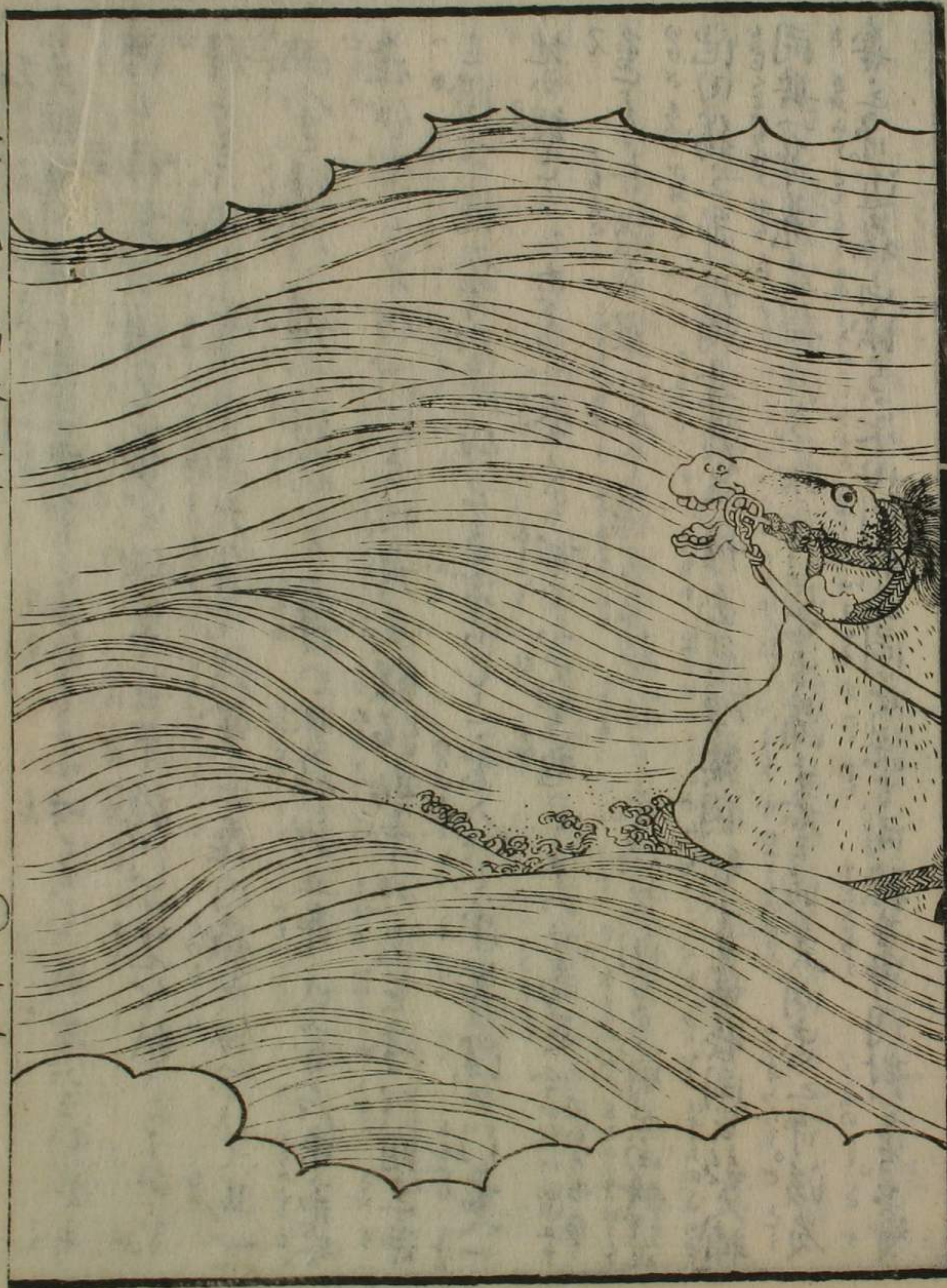


小及び後潔く切替へるは先黨ども是れ又措くと愈々自害なりと有り
 名士ある大和ちが始終の奉止忠あり義あり又勇小しく更小屋を感
 ても猶ありありと然るに長岡孫孝の誓く門外小行ていふ喚ども返
 答せど後少人をも斬りしは是れ犯す内へ急送する小三淵之徒
 登既小自害なりと讀みしは得見才の血脈と悲嘆とをこと限
 りて笑くも本陣へ返りて之淵が終りて言出たる小ぞ信長深く惜
 至ひ孫孝小命とて死骸を奪く葬らむ。諸信長のその翌日橋の
 寄(後向せられ宇治五ヶの庄)柳山今御押所林と勅法を小本陣とをこれ明
宇治橋のわたり十丁あり
 日早又小川を治して攻薙るべしと漸下陣あり。响小本下孫吉部軍の
 と考ふる小公方家いふと防ぐとも自軍川を治を小おわく本陣の
 城の翻手は間あり。倘詰なき時小至る公方(小自害を勧む者)と

漸生害あらんも計がじ然る响大將信長義昭公に攻殺せしと思
 と好と同やと逆臣の罪を得て多し時ありとては是れも逆の族あり何
 事公方の漸生害と止め急を方術とてなると要時止む若しある
 孫小信長徳本の勇士小堀川彌三郎宗重といふのあり又勇烈ま
 のもあらざれば亦や覚絶倫なきは信長殊小愛し玉ひ傍と放し玉
 たりしが秀吉も是れを用ひてやとては信長の漸生害なり傍をの
 退けさせぬ小公方とては公方家は害なりとては君の御名に
 是れ止め奉らんぬとては計らひあるが必定首尾よく翻つて然る
 遠事小然る大才の人のなを事とて堀川彌三郎を以て是れ量ある
 らぬ然一羽が表向小命とては人も置かずとては渠と先陣小加へる
 小信直一も一會り用ひては小と置かずとては信長も是れ心得るも則

梶川を引出さば陣稲葉伊豫守が此方小盾らば功を立よと命ぜらるる
宗重有さく所精意し。稲葉が陣小加らるる。响小秀吉梶川をこが
陣中(家小)指さし色先隊小加らるる。名小盾ふ。治川の先陣に
他人小宗葉を至るる。必心を勵む。至と命ぜらるる。所て孫三宗重の如
小盾も引出さるる。武勇の古人小秀吉も心を負ふ。命ぜらるる。
明日先進つらるる。再び返る。勇はく答ける。小秀吉
累て進む。其志勇を見と命ぜらるる。命ぜらるる。事あり。下りよく
先進する。小料理く。所中(小)入。將軍家の衛生
害を止む。是大切の事。首尾緒任果せ。後小莫方の
功果あり。足下あり。計らるる。先陣小加らるる。心と切て行ひ
至と委細小申會わさるる。梶川一軍集む。の教あり。小盾を人

かましくも思召さ。大切の御用を命ぜらるる。誠小勇は此面目あり。御心安く
思召さ。必む仕果せ。命ぜらるる。と雀躍する。夜の境を待て。時小
元龜四年六月八日朝。日朝より織田の惣軍。九方有。命ぜらるる。推し出さるる。
治川の西岸小先満を。河水浸くと漲り。何所を。流湍ちるる。分るる。
諸軍勢も共小あやぶ。流りて。猶縁をも。然れど小梶川彌三。宗
重の兼て先進の心がけあり。殊小本下が同意を得。是バ。非小先陣せむ
んがあらむ。と思ひつめて。立ちて。抜籠の禁制あり。續く自軍も。見
而一。強かり。渡るとも。益なれ。事と思案せ。今朝東雲の。あひより。
一騎進んで。川岸小到り。織田の出陣を待。今大將の。小靜して。諸勢を
勵まし。進まざる。中小先隊の。稲葉が。一陣。貝鼓小つきて。推し出さるる。がを
と。梶川唯一騎。川中(馬)を。案入。白浪。進む。今日。治川



梶川
彌三郎宗重
模島征よ
宇治川を
魁騎と



の先陣 梶川 弥三郎宗重ありと声言ふ。小峰あり。武者づるひて井
 波も稲葉良通を見えて、續々や笠軍、梶川小先を越さる。下
 峰をさぐり、嫡子右衛門亮同左衛門。老黨、秋篠内藏助、候つて馬を
 跳入。梶川が讀小引、副より一陣、秋篠新五郎、氏家左衛門、危安
 孫伊賀も不破河内も同左衛門。飯沼助平、九毛、倉庫、政同、之、
 笠軍、市橋、九郎、たぬ、つ、候、さ、出、方、ら、じ、と、兼、入、く、平、等、院、の、門、前、へ、
 地、小、親、と、う、ち、あ、ぐ、く、登、く、も、而、く、小、火、を、懸、う、ま、の、高、芝、
 色、より、赤、波、を、軍、ハ、本、下、孫、信、吉、等、と、初、り、て、依、久、向、右、衛、門、尉、柴、田、修、理、進、
 池、田、孫、之、弟、丹、羽、五、郎、左、衛、門、兼、蜂、屋、三、郎、庫、頭、明、智、十、三、郎、長、岡、三、郎、大、捕、
 同、興、一、郎、流、木、揚、津、也、永、原、三、郎、前、也、蒲、生、右、衛、門、大、同、忠、之、弟、後、友、
 喜、之、弟、近、藤、山、城、也、永、田、刑、部、山、岡、三、郎、流、也、同、孫、右、衛、門、對、馬、也、多、賀、

新左衛門山崎孫六郎等、とらへて、と推法を、進、小、公、方、の、所、軍、勢、を、
 過、半、楨、の、馮、小、守、城、と、義、昭、公、也、也、復、一、志、を、余、の、宗、治、の、弟、小、
 備、仗、て、進、法、を、法、を、と、毀、ん、と、せ、一、之、織、田、の、大、軍、小、氣、を、と、と、て、そ、の、
 う、ち、小、城、へ、退、入、一、個、も、と、め、り、は、な、さ、由、小、自、軍、一、勢、も、換、せ、ど、心、易、く、
 推、法、の、楨、の、家、も、推、逼、り、城、中、も、松、井、山、城、も、康、之、嫡、子、孫、江、藤、康、
 秀、儀、五、郎、余、助、少、く、擊、て、出、勇、を、極、め、捲、く、松、井、父、子、を、中、小、提、調、
 康、之、嫡、子、花、丸、見、も、る、を、一、織、田、一、夜、小、推、來、り、松、井、父、子、を、中、小、提、調、
 と、す、計、小、楨、を、し、る、さ、一、も、強、氣、の、康、之、康、秀、進、法、を、多、く、毀、捕、て、潔、く、う、ち、
 死、を、松、井、の、外、少、の、勇、士、を、さ、や、一、個、も、戦、ふ、者、な、し、て、會、城、中、へ、退、入、一、之、織、田、
 勢、増、く、隙、隙、も、あ、ら、せ、進、子、攝、子、を、宗、破、り、五、万、の、大、軍、一、時、小、攻、入、小、城、を、
 も、亦、破、ら、ん、と、勇、を、進、む、と、本、下、孫、信、吉、郎、君、余、分、り、と、自、軍、を、割、り、分、け、

梶川宗重
 模島の
 假御所
 到る公方
 家と喻を



豊臣巴四編卷之三



豊臣巴四編卷之三

十七

小もあまき 暫時がうち 新安座ありて 新心勞とまぬがま王ひ時のころ
 と新待ありて 然るべく 存奉らば 生らるる 死に易し 大將軍より 新身のし
 る。 遣らば 死かどの 有らざるがまて 新命を 全する 王へ 新身のまを 新
 公達 新臺を 始めまぬらせ 賜諸とも 小失玉えんこと 新痛はしく
 覺らるるありと 潤を流して 公方家 大小 感懐はしき 諸
 汝へ 小似合ぬ 純計ひを 重なり 別を 義を 信する 間海ありし
 執行と思入る 宣ひたる 小ぞ 彌之 新護を 兼奉り 新使の 別流を
 賜ふ 小長 新案内 つかんと 梶川 播小 純登り 進公 小向て 言小 將
 軍家の 新使者あり 必を 根藉 玉ふと 呼を 養て 使者 諸とも 誠を
 聞ひて 直地 小信長の本陣 小奉り 新身を 悔で 義昭公 遠地を 新邊を
 申らんと 欲を 新助余ありや 否と りて 新使者を 色らまると 聞はる

まて 信長ハ 則使者と 召よせ 多ひ こと 是 近小 幾方と なる 諫を 重し
 置ること 新用ひ ありせらる 再び 祀と 止る 天下の 為小 へ かく
 々 軍馬を 費と 向と りて 亦 謀 畧 小 する とき 若し 世 間 此
 所も あり 新邊を 儀 然と 遠を 帰と 言 出と べし 詞 靜 小 使
 者と 返さ 諸軍 小 命じて 本丸の 圍と 解せ 玉ひ ざる 家 小 かく 義
 昭公 翌日 様の新と 新邊を ありて 普賢寺 經 蘇 郡 小 あり 山 嶺 小 新 入 あり
 信長より 本小 秀吉と 遣さ 言 且 料理 べき あり 由 孫 吉 師
 奉 兼 奉り 直小 普賢寺 小 別 公 方 小 謂 奉り 若 此の 好 義 継 新
 邊者 ぬ 彼 地 へ 送り 奉る む 是 之 小 状 書 小 あり 義 我 昭 公 小 今
 更 而 目 かく 思 入 右 左 の 言 小 宣 言 能 小 計 ら び 得 ざる 最 悲 一 げ 小
 宣 一 へ 孫 吉 師 小 新 邊 迄 教 行 の 渡 止 め あり 新 信 重 一 へ 寺 中 へ

出若江の城（あまのこゝろ）入（いり）まゐらせ（まゐ）呼（よ）びし（し）ま（ま）や（や）今日（けふ）の（の）日（ひ）あり（あり）た（た）る（る）は（は）是（こゝろ）利（と）
將軍（しやうぐん）号（ごう）氏（し）公（こう）より（より）十（じゅう）有（ゆう）回（かい）連（れん）綿（めん）と（と）武（ぶ）光（こう）を（を）釋（はな）し（し）る（る）も（も）是（こゝろ）利（と）
失（な）く（く）浮（う）澤（さく）は（は）身（み）と（と）り（り）玉（たま）ふ（ふ）こと（こと）痛（いた）む（む）く（く）又（また）悲（かな）む（む）べ（べ）

繪本豊臣勲功記四編卷之二 終

